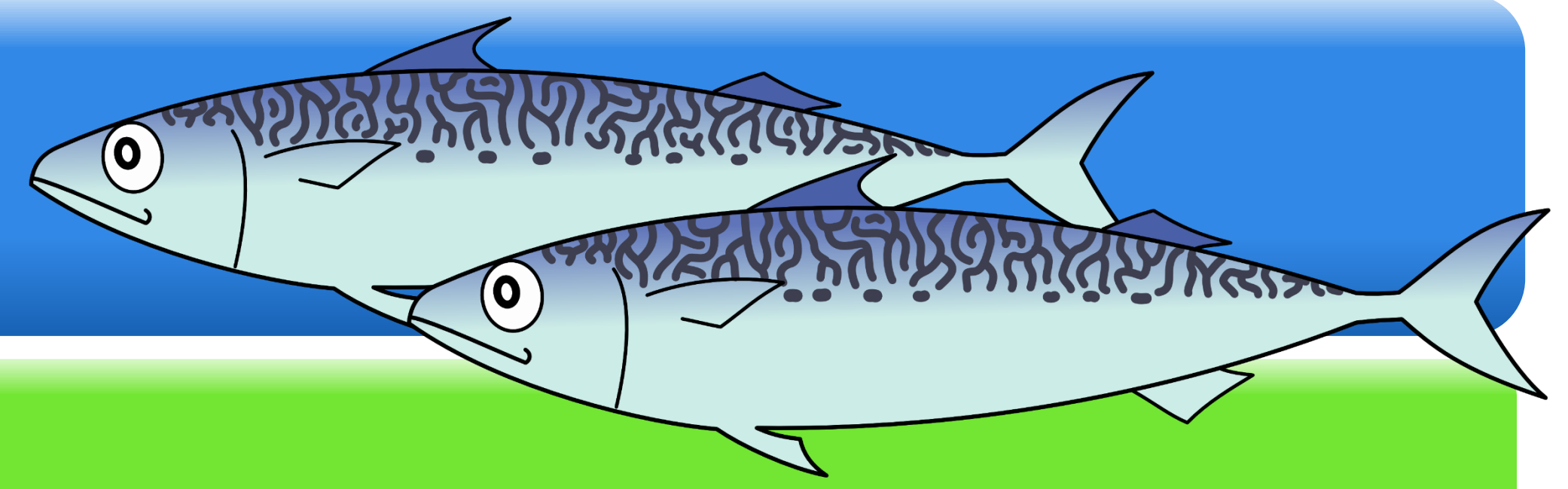


福島県海域の海洋観測



概要

水産海洋研究センターでは、調査指導船「いわき丸」(図1)により定期的に本県海域の海洋観測(水温、塩分等)を実施しています。福島県の観測は大正4年(1915年)から開始し、その後観測範囲を拡大させ、現在では本県沖合の東経145度、最大深度1000mまでの観測を行っています(図2)。観測結果をもとに、週に1回当センターが発行する漁海況速報の作成や、国立研究開発法人水産研究・教育機構と連携した海況予測などを行っています。東北海域全体の海況変動の把握や、魚の分布移動、漁獲量変動に関する研究に役立てています。



図1 調査指導船「いわき丸」

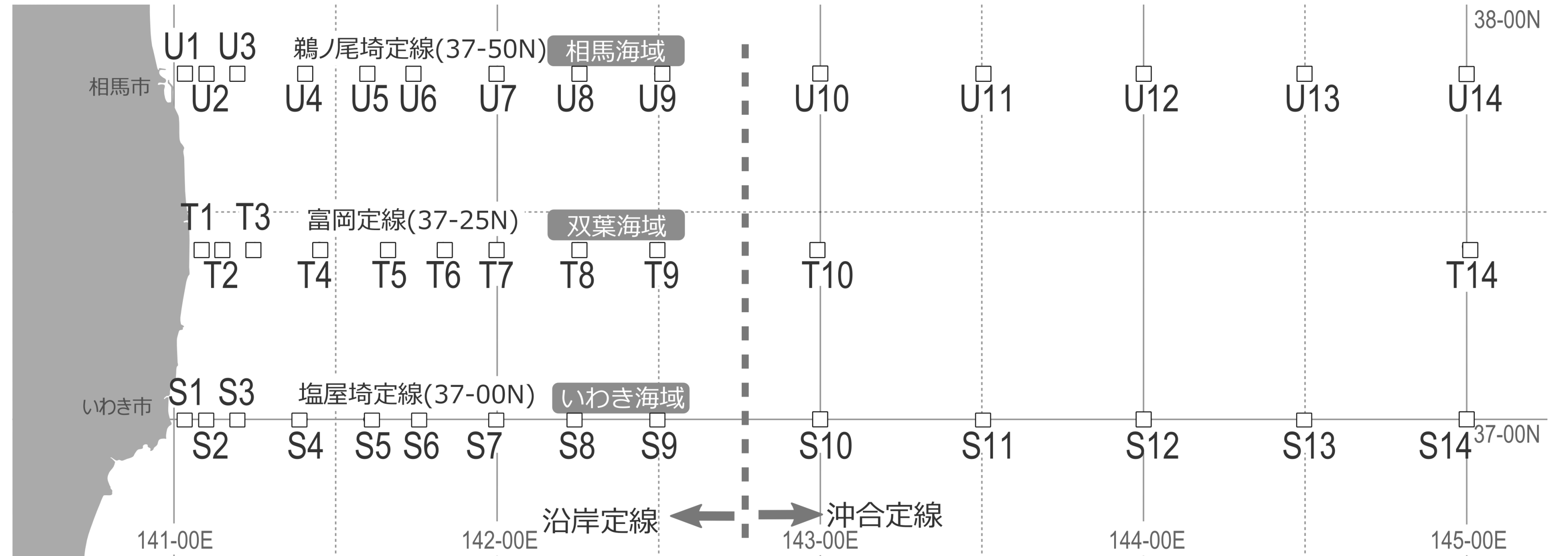


図2 海洋観測定点

方法

海洋観測には、CTD(Conductivity Temperature Depth profiler)という観測機器(図3)を使います。図2に示した観測定点でCTDを沈めて、海水中の水温、塩分、酸素量などを水深ごとに測定しています。このCTDは水深1000mまで測定可能で、さらに海水を詳しく調べるため、任意の水深の海水を採取することもできます。

このほか、「いわき丸」の船体に取り付けられた水温計や潮流計により、航海中は常に表層の水温や、潮流の向き・速度を測定しています。

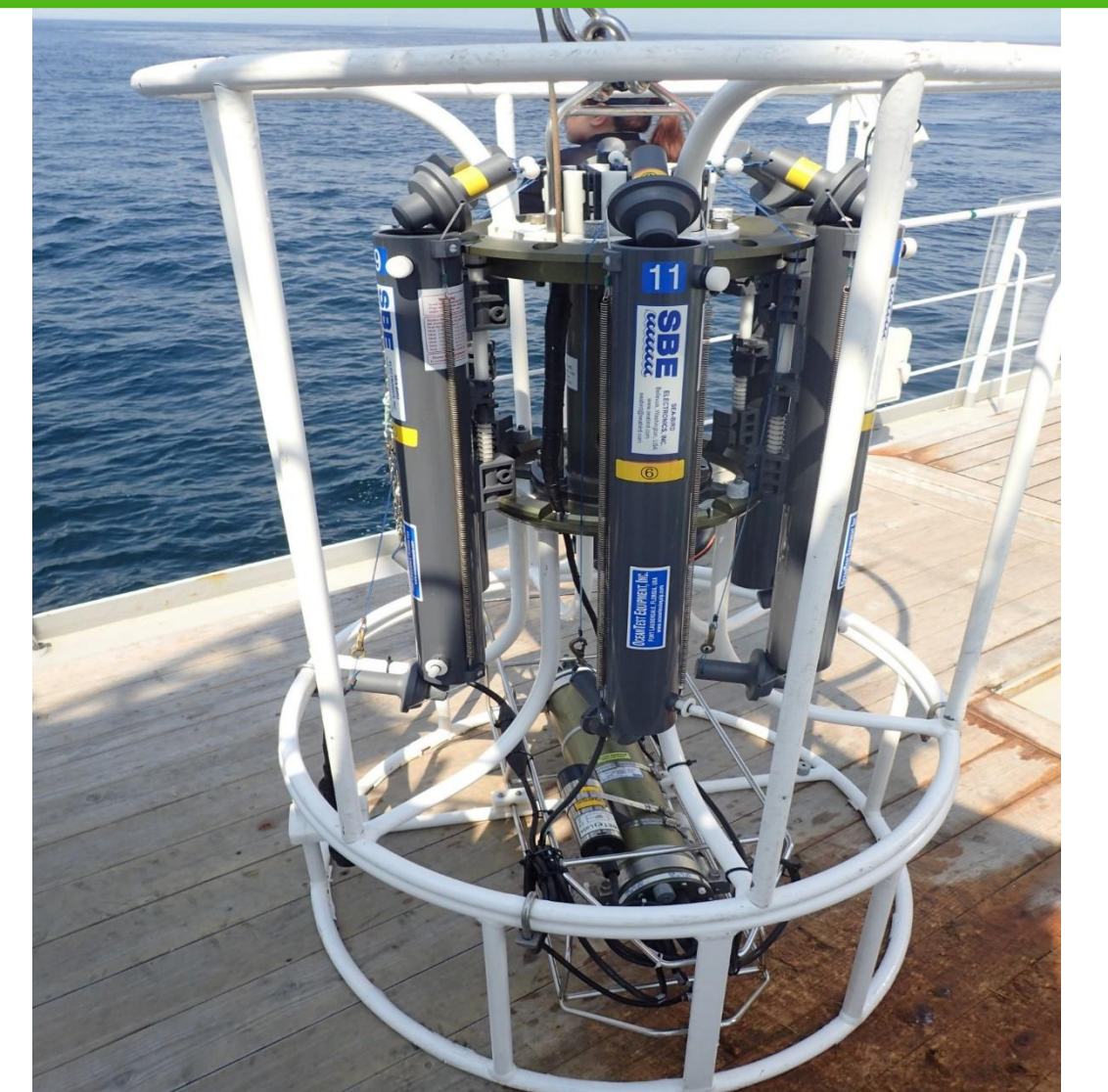


図3 CTD

結果の利用

観測した表層水温を基に、週に1回本県海域の表面水温分布図を作成し、漁海況速報として関係漁業団体に配布するとともに、当センターのHPで公開しております。

また、福島県を含む各県の観測データは、試験研究や水産研究・教育機構などの外部研究機関と共同で作成される水温分布図などにも利用されており、漁業者へ漁業の参考となる情報を提供しています(図4、図5)。

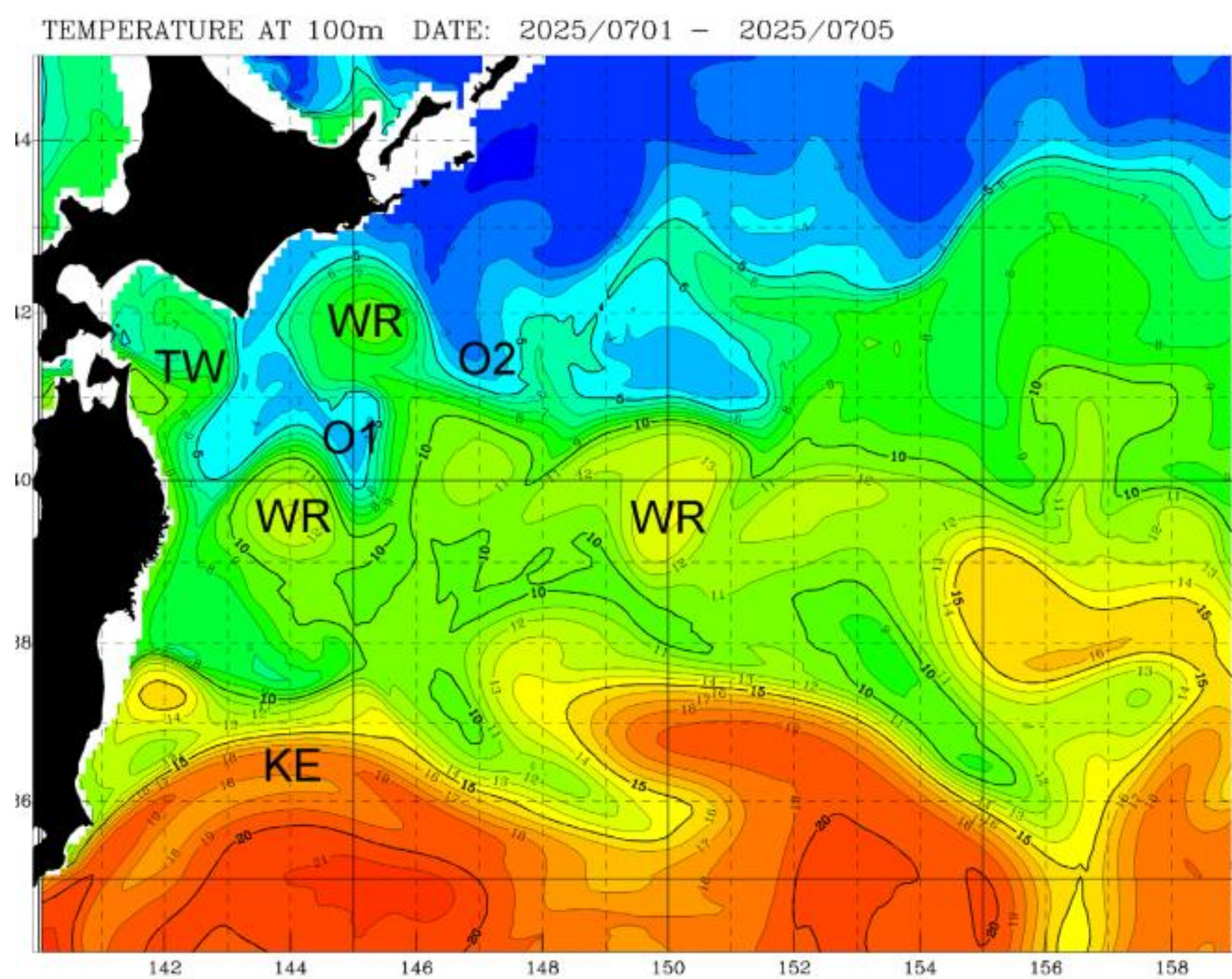


図4 2025年7月上旬の東北海域100m深水温分布図(水産研究・教育機構作成、東北海区海況予報より抜粋)

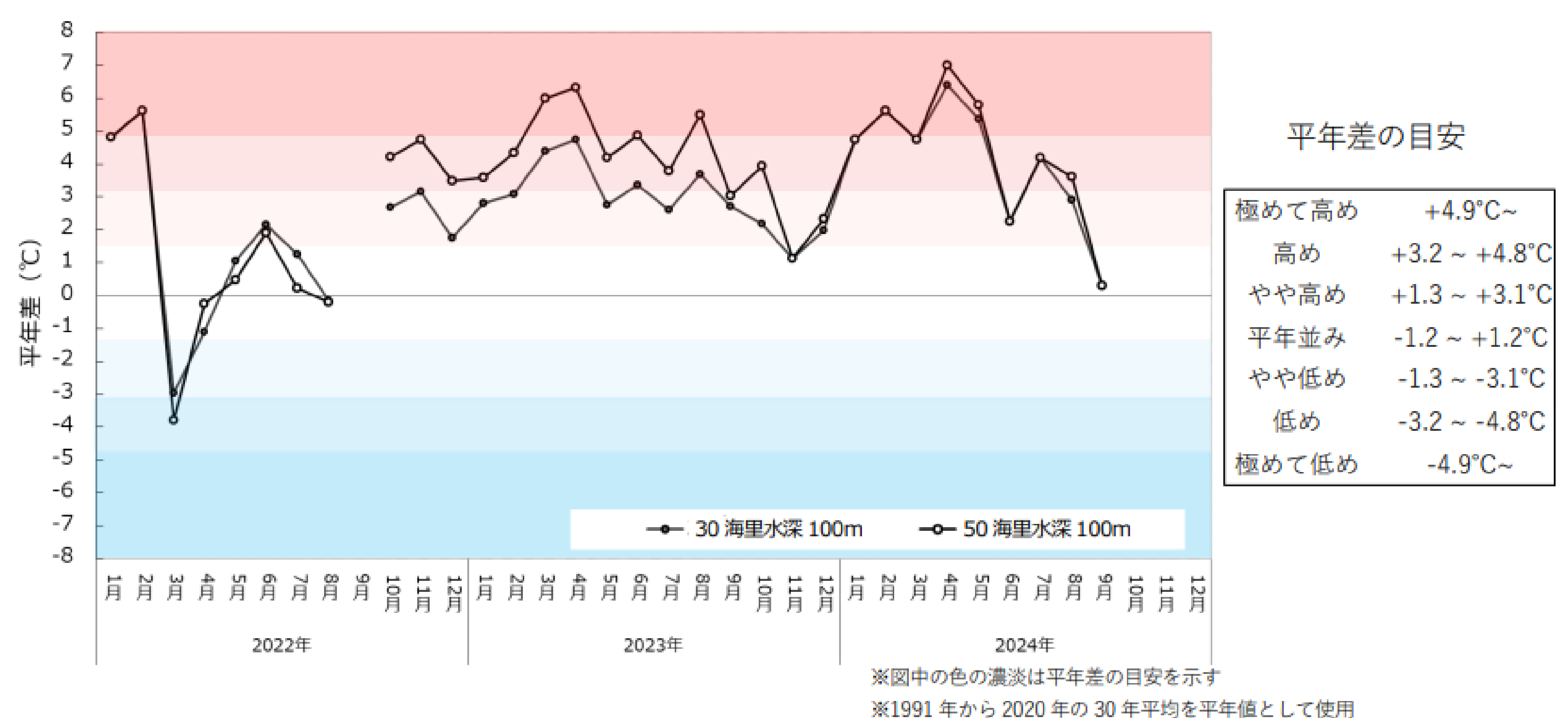


図5 福島県海洋観測データから見る福島県沖の海水温推移(試験研究結果より抜粋)

コラム: 海里とは?

海で用いる長さの単位です。メートルで表すと、1海里=1,852メートルになります。

・水産海洋研究センターは海洋観測データを蓄積、解析し、水温の短期予測や魚の移動生態等についての試験研究を行っています。

・水産海洋研究センターのHP(<http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/37380b/suion.html>)では、昭和55年以降の水温平年差のグラフなどを公開しています。

